

## 大学教育の改善に関する京大教官意識調査

お忙しいなか、本調査にご協力いただきますこと、誠にありがとうございます。

この調査は、総長特別経費により、本学における教育の在り方を少しでも良いものにしていくため、全学の教授、助教授、専任講師の全員の皆様の率直なご意見をうかがおうとするものです。

尚、この調査の回答は統計的に処理されますので、個人のプライバシーが侵されることはありません。調査結果につきましては、本センターの公開研究会、紀要等を通じまして公開いたします。

高等教育教授システム開発センター

### 記入の仕方等について

1. この質問紙は12頁あります。それぞれの質問ごとに、あらかじめ用意されている選択肢の番号を○でかこんでください。ぴったりした選択肢がないときは、ご自分の考えに最も近いものを選び、できるだけ「無回答」にならないようにしてください。  
( ) 内には、必要に応じて、具体的に御記入ください。
2. この調査の内容や方法についてのご意見がございましたら、最終の12頁の自由記述欄に御記入ください。
3. 御記入が終わりましたら、お手数をおかけしますが、同封の返信用封筒にて、  
5月8日（金）までに学内便にてご返送ください。
4. 調査についてのお問い合わせは、次までお願いいたします。

高等教育教授システム開発センター (FAX 3045)	
梶田叡一	☎ 内線 3086
石村雅雄	☎ 内線 3085
	E-Mail <a href="mailto:ishimura@center.highedu.kyoto-u.ac.jp">ishimura@center.highedu.kyoto-u.ac.jp</a>

I. 回答される〈あなた〉についておたずねします。

1. あなたの所属する部局を御記入ください。

( )

2. あなたの職位は、次のいずれですか。

- ①教授      ②助教授      ③講師

3. あなたの性別は、次のいずれですか。

- ①男性      ②女性

4. あなたの1998（平成10）年4月1日現在の年齢は、次のいずれですか。

- ①29歳以下      ②30-34歳      ③35-39歳      ④40-44歳  
⑤45-49歳      ⑥50-54歳      ⑦55-59歳      ⑧60歳以上

5. あなたの大学（本学を含む）及び短期大学での教育歴は通算して何年ですか。

- ①5年以下      ②6-10年      ③11-15年      ④16-20年  
⑤21-25年      ⑥26-30年      ⑦31-35年      ⑧36年以上

6. あなたの本学での教育歴は何年ですか。配置替えがあった場合、1度退職されて再度採用された場合（他大学、各種研究機関、私立大学からの移動等）には、通算年数で回答してください。

- ①5年以下      ②6-10年      ③11-15年      ④16-20年  
⑤21-25年      ⑥26-30年      ⑦31-35年      ⑧36年以上

7. 本年度、あなたが本学内で担当する授業のコマ数はいくつですか。大学院（大学院学生を主対象としつつも学部学生への受講を許可するものを含む）、学部（学部学生を主対象としつつも大学院学生への受講を許可するものを含む）別にお答えください。

大学院 ( ) コマ      学部 ( ) コマ



11. 学生の基礎学力は以前と比べて変化しましたか。

- ①おおいに向上している。
- ②ある程度向上している。
- ③どちらでもない。
- ④ある程度低下している。
- ⑤おおいに低下している。

12. 学生の学習意欲はどうですか。

- ①ほとんどの学生に学習意欲がある。
- ②かなりの学生は学習意欲がある。
- ③どちらでもない。
- ④かなりの学生は学習意欲がない。
- ⑤ほとんどの学生に学習意欲がない。

13. 学生にとって大学生活では何が最も重要だと思われませんか？次の選択肢の中から

第1位のものに◎印を、第2位のものに○印を1つずつつけてください。

- ①大学での勉強（学問）
- ②大学の正規の課程以外での勉強（学問）
- ③クラブ・サークル活動
- ④アルバイト
- ⑤友人や異性との交際
- ⑥ボランティア・社会活動
- ⑦その他（                      ）

14. 学生への接し方についてどのようにお考えですか（回答は1つのみ）。

- ①努力して接すれば学生と理解しあえると思うし、事実理解しあえている。
- ②自然体で接していれば、自然と学生とは理解しあえる。
- ③努力して接すれば学生と理解しあえると思うが、実行していない。
- ④学生とは努力して接しても理解しあえない部分が多い。
- ⑤学生と理解しあえても、しあえなくてもどちらでもかまわない。
- ⑥学生とはできることなら関わりたくない。

15. 日々の授業が実り豊かになるために、次のうちあなたは何をしていますか（複数回答可）。

- ①日々の授業についての文書による講義案（シナリオ）の作成。
- ②年間（半年間）の授業全体の一貫した講義計画の作成。
- ③教官独自のシラバス（授業の目標、内容、講義計画の詳細などを記述したもの）の作成と公表。
- ④学生の出席（欠席）の点検。
- ⑤学生の授業への能動的参加を促す工夫。
- ⑥授業内容に対する予習（的課題）の指導。

16. FD（ファカルティ・ディヴェロプメント）という言葉、あなたはどの程度耳にしますか。

- ①非常によく耳にする。
- ②ときおり耳にする。
- ③あまり聞き慣れない。
- ④聞いたことがない。

17. FD（ファカルティ・ディヴェロプメント）という言葉の意味を、あなたはどの程度御存知ですか。

- ①よく知っている。
- ②ある程度は知っている。
- ③あまり知らない。
- ④まったく知らない。

18. 採用、昇進等の際の教官の評価に、教育上の実績を考慮すべきだと思いますか。

- ①おおいに考慮すべきである。
- ②ある程度考慮すべきである。
- ③どちらでもない。
- ④あまり考慮すべきではない。
- ⑤まったく考慮すべきではない。



20. 次のうち、どのようなことが授業改善のために重要、若しくは重要でないと思われませんか。重要だと思われるもの3つ以内に○、重要でないと思われるもの3つ以内に×をつけてください。

- ①優れた授業を視聴すること。
- ②ビデオ等によって記録された自らの授業を視聴すること。
- ③他の教官によって行われる授業を観察すること。
- ④授業に関する学生の評価結果を参考にして新たな工夫をすること。
- ⑤日々の授業の積み重ねにより実際の経験を積むこと。
- ⑥授業に対する教官の熱意、気力、やる気を高めること。
- ⑦教官の人柄、識見をみがくこと。
- ⑧授業の内容を精選、構造化すること。
- ⑨学生の現状について理解を深めること。
- ⑩授業内容の重要性を学生に理解させること。
- ⑪学生の関心・好奇心を刺激するものとなるように授業内容を工夫すること。
- ⑫その他 ( )

### Ⅲ. 高等教育教授システム開発センターについてうかがいます。

21. 本学に学内共同教育研究施設として「高等教育教授システム開発センター」(以下「センター」)があることを御存知ですか。

- ①センターの諸企画(大学教育改革フォーラム、公開研究会等)に参加したことがある。
- ②センターの諸企画に参加したことはないが、センターのことは知っているし、これまでの主要な活動内容も知っている。
- ③センターが存在することは知っている。
- ④センターの名称を聞いたことがあるような気がする。
- ⑤何も知らない。

22. センターが実施した「京都大学卒業者の意識調査」を御存知ですか。

- ①報告書を読んだ。
- ②新聞等で調査結果の一端は知っている。
- ③調査があったことは知っているが、調査結果は知らない。
- ④何も知らない。

23. 全学共通科目レビュー委員会が平成8年度の4回生を対象に実施した「京都大学の教育と学生生活」を御存知ですか。

- ①報告書を読んだ。
- ②新聞等で調査結果の一端は知っている。
- ③調査があったことは知っているが、調査結果は知らない。
- ④何も知らない。



#以下は自由記述によりお答えください。

27. 今後センターはどのような活動をして行くべきと思われますか。

28. 調査結果によれば、教官に対して、学生の一部には以下のような要望がありました。これらについてどのようにお考えですか。自由にお考えをお書きください。

- I. もっと教育者としての自覚を持ってほしい。
- II. もう少し工夫して講義等をしてほしい。
- III. 学生を見下すような態度はやめてほしい。
- IV. 日常的な態度を反省してほしい。
- V. 学生ともっと親密につきあってほしい。

29. 現在の本学の学生に対して何か注文や要望はありますか。自由にお書きください。

30. この調査に関するご意見をお聞かせください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

## 研究分担者・執筆者紹介

- 梶田 叡 一 (ノートルダム女子大学学長)  
田中 每 実 (京都大学教授／高等教育教授システム開発センター)  
石村 雅 雄 (京都大学助教授／高等教育教授システム開発センター)  
大山 泰 宏 (京都大学助教授／高等教育教授システム開発センター)  
溝上 慎 一 (京都大学助手／高等教育教授システム開発センター)  
神藤 貴 昭 (京都大学助手／高等教育教授システム開発センター)  
井上 義 和 (京都大学大学院学生／教育学研究科)  
中井 裕 之 (京都大学大学院学生／教育学研究科)

平成11年3月25日 印刷

非売品

平成11年3月31日 発行

発行 京都大学高等教育教授システム開発センター

京都市左京区吉田本町 (〒606-8501)

TEL 075-753-3087

FAX 075-753-3045

印刷 (株) 北 斗 プ リ ン ト 社

京都市左京区下鴨高木町38-2 (〒606-8540)

TEL 075-791-6125



Kyoto University's Library of Higher Education Research  
RESEARCH CENTER FOR HIGHER EDUCATION